大変お世話になっております。次回開催の展覧会についてお知らせいたします。
展覧会告知等のご協力をいただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

小海町高原美術館　館長　前島孝一

展覧会名　**そこにあるもの ― モノクロームの魅力 ―**

会期　**2015年4月11日[土] ― 6月7日[日]**

会場　**小海町高原美術館**

□休館日＝火曜日（5月5日は開館）、祝日の翌日（5月7日）
□開館時間＝9：00 ― 17：00（最終入館16：30）
□入館料＝高校生以上：500円/小中学生：150円
□主催＝小海町高原美術館 □後援＝長野県/長野県教育委員会/信濃毎日新聞社/SBC信越放送/NBS長野放送/TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/FM長野/八ヶ岳ミュージアム・リング □協力＝株式会社小林画廊

小海町高原美術館では、「そこにあるもの ―モノクロームの魅力― 」と題し、3名の作家を紹介します。

モノクロームとは単一の色彩を意味し、美術では単色画、単彩画をさします。本展では、秋山泉の鉛筆画、小松嘉門の木版画、中村眞美子のドライポイント（先端がとがった針等で版に直接図像を刻み込む版画技法）による主に白と黒のモノクロームの表現を展覧します。

秋山泉は、陶やガラスの器、蝋燭、室内等のモティーフを光のなかで捉え、硬度の違う多くの鉛筆を駆使し、独自の絵画空間をつくり上げています。小松嘉門は、長い時を刻む巨木との対話や、バリ島でのスピリチュアルな体験から、木版にこだわり、大判の木版画で精緻な作品を制作しています。中村眞美子は、枯れゆく草などの植物を、独特のにじみが特徴のドライポイントの線と画面構成で表現し、静かで豊かな風景を見せてくれます。

それぞれの作品の光や、空間、時間から浮かび上がる「そこにあるもの」の存在を感じ、技法の異なる驚くべき表現の魅力をお愉しみ下さい。

□関連行事

◎オープニングレセプション＆アーティスト・トーク
4 月 11 日（土）15：00 ～ 16：30
料金：入館料のみ
レクチャー講師：秋山 泉氏、中村 眞美子氏、小松 嘉門氏

お問い合わせ先　小海町高原美術館
担当学芸員：中嶋
〒384-1103
長野県南佐久郡小海町豊里5918-2
TEL.0267-93-2133　FAX.0267-91-3011
E-mail：nakazima-minoru@koumi-town.jp
ホームページ：
http://www.koumi-town.jp/museum/
https://www.facebook.com/koumimuseum

出品作家のご紹介

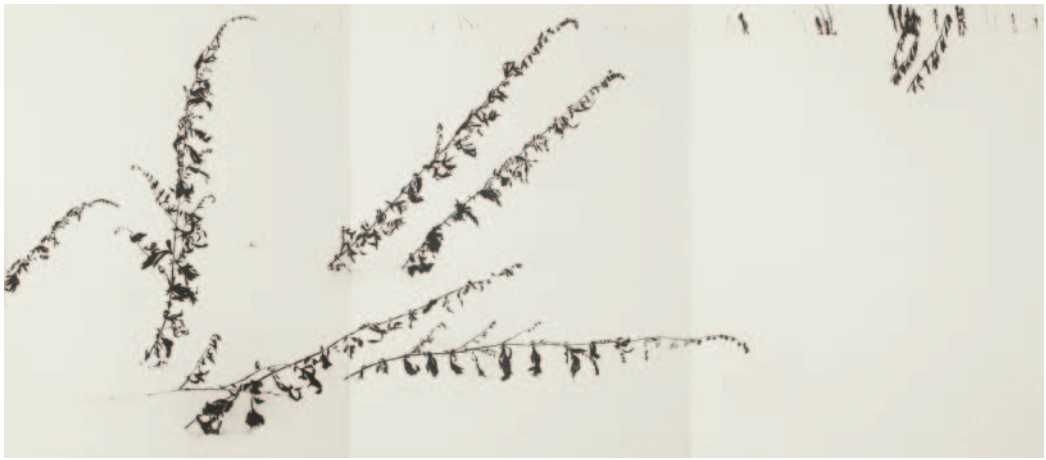
秋山 泉　AKIYAMA Izumi
[鉛筆画]
1982 年　山梨県生まれ。
2009 年　東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻 修了。

《静物XVI》2014年 鉛筆・紙 606×500mm

小松 嘉門　KOMATSU Comeon
[木版画]
1963 年　東京都生まれ。
1985 年　和光大学人文学部芸術学科卒業。

《木霊》2000年 木版画 1120×820mm

中村 眞美子　NAKAMURA Mamiko
[ドライポイント]
1972 年　長野県生まれ。
1993 年　長野美術専門学校造形学科デザインコース卒業。
2003 年　版画家・故山下孝子氏に師事、版画を始める。



《秋から冬へ》2013年 ドライポイント 600×1350mm